



欄に数値またはコメントを記入

| | | | | | | |
|----------------|-------------------|-----|-----|--------|---|------|
| 1. 建物概要 | | | | | | |
| 建物名称 | 小山町落合地域優良賃貸住宅整備事業 | BEE | 1.5 | BEEランク | A | ★★★★ |

| 2. 重点項目への取組み度 | | | | | | |
|--|---------------------|------|-------|----------------|-----------------|-------------------|
| 重点項目 | 得点 [※] /満点 | 取組み度 | 評価 | | | |
| "ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming) | 3.6 | /5 | | ふつう | | |
| "災害に強いしずおか"の形成 (Disaster) | 3.1 | /5 | | ふつう | | |
| "しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design) | 3.0 | /5 | | ふつう | | |
| "緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature) | 3.0 | /5 | | ふつう | | |
| ※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点) | | | 評価 凡例 | よい 4 点以上 | ふつう 3 点以上 | がんばろう 3 点未満 |

| 3. 重点項目についての環境配慮概要 | | 内訳対応項目 | |
|---|---|--|-----|
| 各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。 | | 得点 | 3.6 |
| <p>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</p> <p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)</p> <p>① 共用部:外皮面積加重平均 レベル4、住居部:断熱性能等級4</p> <p>③ 住居部:庇+カーテンによる昼光制御を採用</p> <p>④ 劣化対策等級:等級2</p> <p>④ 主要な用途上位3種の2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑤ 外構緑化指数:10%以上、既存樹木の保存、外来種への適切な対応</p> <p>⑥ 空地率:60%以上、舗装面積率:25%未満</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</p> <p>⑦ 断熱性能等級:等級4相当</p> <p>⑨ LED照明の採用。高効率エアコンの導入</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</p> <p>⑪ 主要水栓に節水コマを使用</p> <p>⑬ ODP=0かつGWP=1の発泡断熱材を採用</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑭ ライフサイクルCO2排出率:68%</p> <p>⑮ アマダステータの把握、見付面積比:55%以上、隣棟間隔指標:0.5以上、地表面対策面積率:15%以上</p> | <p>Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能</p> <p>Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備</p> <p>3.2 3.2.1 ③ 昼光制御</p> <p>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔</p> <p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>2 ⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>3 ⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>4 4.1 ⑩ モニタリング</p> <p>4.2 ⑩ 運用管理体制</p> <p>LR-2 1 1.1 ⑪ 節水</p> <p>1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>2 2.1 2.1.1 ⑫ 材料使用量の削減</p> <p>2.1.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>2.1.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.1.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.1.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>2.1.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤</p> <p>3.2.2 ⑬ 断熱材</p> <p>3.2.3 ⑬ 冷媒</p> <p>LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p> | | |
| | <p>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</p> <p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p> <p>⑯ 地域係数:1.2</p> | <p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性</p> <p>2.1.2 ⑯ 免震・制振性能</p> <p>2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備</p> <p>2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>2.4.3 ⑰ 電気設備</p> <p>2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>2.4.5 ⑰ 通信・情報設備</p> | |
| | <p>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</p> <p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</p> <p>⑱ パリアフリー法基準相当の計画とした。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</p> <p>㉑ コミュニティ施設の設置、夜間照明の設置により、防犯に配慮している。</p> | <p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり</p> <p>3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ</p> <p>Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上</p> | |
| | <p>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (②生物環境の保全と創出/②まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑤ 外構緑化指数:10%以上、既存樹木の保存、外来種への適切な対応</p> <p>② 静岡県景観条例に適合</p> <p>⑥ 空地率:60%以上、舗装面積率:25%未満</p> <p>■敷地外環境対策 (⑮温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑮ アマダステータの把握、見付面積比:55%以上、隣棟間隔指標:0.5以上、地表面対策面積率:15%以上</p> | <p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>2 ② まちなみ景観への配慮</p> <p>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p> | |

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|--|--------|-----------------|
| 建物名称 | 小山町落合地域優良賃貸住宅整備事業 | 階数 | 地上 5F |
| 建設地 | 静岡県駿東郡小山町字落合54-1.54-103.54-138.小山字スルガ101-1.101-4.101-6.101-20.101-36 | 構造 | RC造 |
| 用途地域 | 市街化区域、準防火地域 | 平均居住人員 | 142 人 |
| 地域区分 | 5地域 | 年間使用時間 | 8,760 時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 集合住宅 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2020年6月 予定 | 評価の実施日 | 2019年5月27日 |
| 敷地面積 | 2,688 m ² | 作成者 | (株)アイ・エフ建築設計研究所 |
| 建築面積 | 835 m ² | 確認日 | 2019年5月29日 |
| 延床面積 | 3,056 m ² | 確認者 | (株)アイ・エフ建築設計研究所 |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

| 3 設計上の配慮事項 | | |
|--------------|--|---|
| 総合 | 省エネルギーや耐久性に配慮して、地球温暖化防止・ヒートアイランド現象の緩和を図っている。 | その他 特になし |
| Q1 室内環境 | 断熱性能の高い外壁材の選択、屋根裏の断熱材設置等により空調負荷の低減に配慮している。遮音性能の優れた建材を使用し、住戸のプライバシーに配慮している。 | Q3 室外環境(敷地内) 敷地周囲に緑地を効果的に配置し、植栽に親しむことができるように配慮している。 |
| LR1 エネルギー | LED照明や潜熱回収型給湯器を採用し省エネルギーを図っている。 | LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ を削減し、地球温暖化防止を図っている。 |
| Q2 サービス性能 | 耐用年数の永い材料を使用し、建物が長期間使用できるように配慮している。 | |
| LR2 資源・マテリアル | 節水器具の利用により、節水を図っている。分別が容易な施工方法の採用により、資源の大量消費を防ぐようにしている。 | |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される